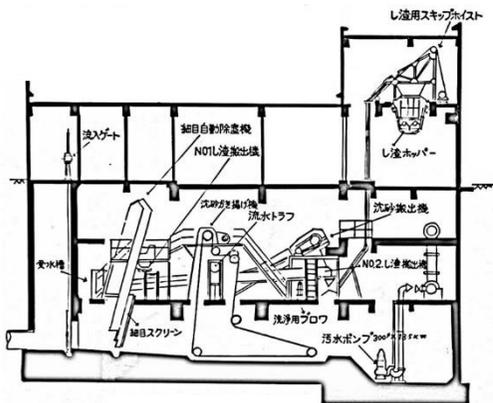


三郷市下水道ポンプ施設ストックマネジメント実施方針【概要版】

【背景】

三郷市では、公共下水道早稲田幹線と丹後幹線の汚水を下流の流域下水道中川終末処理場へ送水する中継施設として、昭和58年に早稲田中継ポンプ場を整備しています。本計画は、下水道ポンプ施設の健全性の低下傾向を捉え、施設の延命化とライフサイクルコストの最小化を考慮した効率的・効果的な予防保全型の維持管理計画を立案し、事故等の未然防止を図るものです。



ポンプ場概要

【リスク評価】

早稲田中継ポンプ場内の設備（ストック）を「土木設備・建築設備・機械設備・電気設備」に分類し、それぞれの設備について、機能に基づいた被害規模（影響度）と標準耐用年数超過率に基づいた被害発生確率（不具合の起こりやすさ）によりリスクを評価しました。

リスクが高い設備数は以下のように推移することから、改築事業を実施する必要があります。

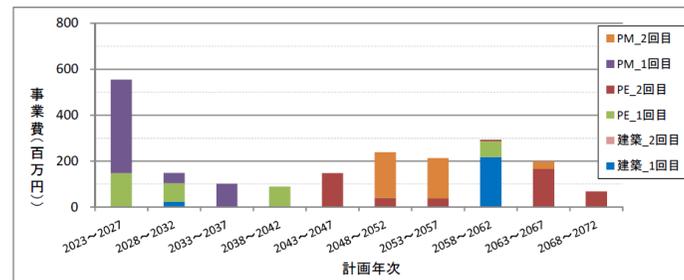
リスク値（高判定、ユニット全数37）



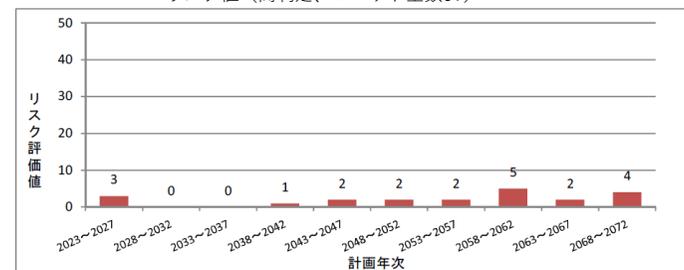
【長期的な改築シナリオの検討】

改築に係る投資額を可能な限り一定とし、標準耐用年数超過の設備割合及びリスク高の低減を目的とした最適な事業シナリオを検討しました。本事業シナリオの概算事業費とリスク高の設備数の変化は以下のとおりとなります。

改築事業費（総事業費 2,056 百万円/50 年）



リスク値（高判定、ユニット全数37）



【点検・調査計画】

処理機能を維持していくために、設備の状態把握を行う必要があることから、点検調査計画を立案しました。

施設名称	点検・調査頻度	備考
沈砂池設備	概ね 7～10 年を目途に実施	池解放点検、視覚調査
汚水ポンプ設備（水中型）	概ね 5～10 年を目途に実施	分解点検、視覚調査
防食	概ね 7～10 年を目途に実施	視覚調査
屋根防水	概ね 5～10 年を目途に実施	視覚調査
外装仕上、外部建具	概ね 5～10 年を目途に実施	視覚調査
躯体	概ね 10～20 年を目途に実施	視覚調査、はつり調査等